

老年期にある人の在宅復帰を支える看護学実習

学習目標：予防的視点を持ち、もてる力と意思決定を尊重しながら生活を整え、人生の頭語に向けて支援する重要性が理解できる。

(評価の欄にA・B・Cをつける。)

学習活動	学習活動における具体的評価規準	評価資料	評価基準			ポイント	学生自己評価		評価
			A (10点)	B (6点)	C (4点)		中間	最終	
1.通所サービスや施設サービスを利用している高齢者を理解する。	1.老年期の特徴と健康障害より、現在の生活上の課題がわかる。	振り返り用紙 分析シート 発言	老年期の特徴と健康障害の関連付けが十分で、生活上の課題に関連付けている。 (20点)	老年期の特徴と健康障害の関連は不十分であるが、生活上の課題は理解している。 (12点)	健康障害だけで、生活の不自由さを理解している。 (8点)	老化現象・病態のメカニズム・主訴・入所による生活の変化			
	2.今後起こりうる危険性がわかる。		今後起こりうる危険性を支援に結び付けている。	今後起こりうる危険性を理解している。	顕在している危険性のみ理解している。	基本動作・食事と栄養・排泄・活動と休息・清潔と衣生活・合併症のリスク			
	3.社会資源の活用が必要がわかる。	基本情報・介護保険制度の概要 発言	社会資源活用の必要性を対象の状況と関連づけて理解している。	社会資源の活用を必要を理解している	活用している社会資源のみ理解している。	介護保険法・利用目的・利用している社会資源			
	4.家族背景や家族の介護力がわかる。		家族背景や家族の介護力を支援に活かそうとしている。	家族背景や家族の介護力を理解している。	家族背景のみ理解している。	家族背景・家族との関係・介護者とキーパソン			
2.在宅復帰を促す支援が実践できる。	1.対象のもてる力を活用し、安全な支援ができる。	インパクトシート・振り返り用紙 分析シート	健康な力を引き出し、さらに安全な支援ができる。	健康な力を活かした安全な支援ができる。	安全な支援ができる。	もてる力・安全管理			
	2.対象の意思決定の尊重を理解しながら、今後の生活を見据えた支援ができる。	援助計画追加用紙(評価を記載) 発言	意思決定の尊重を理解し、今後の生活を見据えた支援ができる。	意思決定の尊重を理解し、今後の生活を見据えた支援はできていない。	意思決定の尊重が十分理解できておらず、今後を見据えた支援もできていない。	意思決定・安楽の確保・継続性・生活の場			
	3.多職種協働の実際を通して看護の役割がわかる。	成長報告書 凝縮ポートフォリオ 発言	多職種協働の実際から、看護師の役割について明確に表現している。	多職種協働の実際から、看護師の役割について表現している。	多職種協働の場面しかとらえていない。	多職種連携・地域包括ケアシステム			

